

## ニュース

### 海外研究者の来訪

札幌での第14回国際社会性昆虫学会議に参加されたミツバチ、マルハナバチの研究者が相次いで来訪し、大学院農学研究科との共催でセミナーを開催した。

8月5日(月)の第1回セミナーでは、カナダ・サイモンフレーザー大学理学部 Keith Slessor 教授による「ミツバチ女王蜂の複雑な社会化学」、南アフリカ・ローデス大学理学部 Randall Hepburn 教授による「トウヨウミツバチの分類と生物地理学」、8月6日(火)の第2回セミナーでは、オランダ・コポート・バイオロジカルシステムズ社の Adriaan van Doorn 博士による「マルハナバチの実用化」の講演が行われた。また、ベネズエラ・ロスアンデス大学薬学部の Patricia Vit 博士には、ハリナシバチのハチミツを用いた白内障の治療研究、玉川大学で博士号を取得したタイ・チュラロンコン大学 Sureerat Deowanish 博士にはタイでのミツバチ研究をそれぞれ紹介いただいた。



左上から時計回りに、Deowanish 博士、Slessor 教授、Hepburn 教授、Vit 博士、van Doorn 博士

### 第14回国際社会性昆虫学会議開催に際してのご寄付のお礼

2002年7月28日～8月3日の間、北海道大学での第14回国際社会性昆虫学会議の開催に際しまして、ミツバチ科学購読会員の方々にご寄付をお願い致しましたところ、以下に記しました多数の方々よりご寄付を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。このたび賜りました寄付金は、招待講演者、東南アジア地域の研究者の招聘に活用させていただきました。

社団法人日本養蜂はちみつ協会、社団法人はちみつ公正取引協議会、社団法人ローヤルゼリー公正取引協議会、全日本はちみつ共同組合、日本プロポリス協議会、兵庫県養蜂振興会、アピ株式会社、小野養蜂場、株式会社健康生活グループ友愛、コンビタジャパン株式会社、埼玉養蜂株式会社、ジェーアールジェー製菓株式会社、株式会社下鳥養蜂園、末次 晃、株式会社杉養蜂園、株式会社東洋医学舎、株式会社ナルミ、日本蜂蜜株式会社、日本ヘルスフーズ研究所、株式会社ファンケル、有限会社松本養蜂総本場、株式会社ローズメイ、有限会社山田養蜂場(順不同)

編集後記 北海道大学での国際社会性昆虫学会議は、盛会の内に終了することができた。会議の雰囲気をお野助教授の参加記事でお伝えした。運営委員会に加わった私共にとっても、満足できた会議であった。国際会議といえば、2003年にアピモンディアが開催されるスロヴェニアの養蜂を掲載した。実際にスロヴェニアに養蜂の取材に行かれた塚本氏には、お忙しい中、紀行文をいただき、また写真家ヴィルハー氏のご好意で貴重な写真をお借りできたことに感謝したい。昨今、注目されているアピセラピーについて、ドイツ、アピセラピー協会会長でもあるスタガッシュ博士に解説いただいた。アピセラピーに関する資料として活用いただきたい。国産マルハナバチの実用上の問題点が解決されてきているが、浅田氏には学会誌に発表された論文を「ミツバチ科学」向けにまとめて掲載いただいた。(忠)